

# ハウスの環境制御の再確認

## 《総合的な環境制御》

### 【炭酸ガス施用】

- ・暖冬だから炭酸ガス施用を控える?? 苺の葉面積が大きくて厚ければ吸収力も高くなりますので積極的に施用して生育や果実肥大を良くします。

### 「光合成の始まる午前中から450~500ppmをハウス全体に拡散します」

晴天・曇天日は午前9:00~15:00施用

### 【飽差】 (温度・湿度・光)

- ・生育時期により温度管理は操作を行います、午前中は26~28°C、午後からはやや下げて、日没からは3時間ほどは前夜温18~20°Cを確保します。
- ・湿度は炭酸ガスの施用中はやや高くします。(気孔から吸収しやすく)

### 【水管理・肥料】

- ・炭酸ガス施用の効果をより高く出すには、水を好みますので通常より2割程度は増す。

### 「光合成作用は (CO<sub>2</sub>+水) ⇒糖 (デンプン質) ⇒生育促進 (茎葉根・果実)」

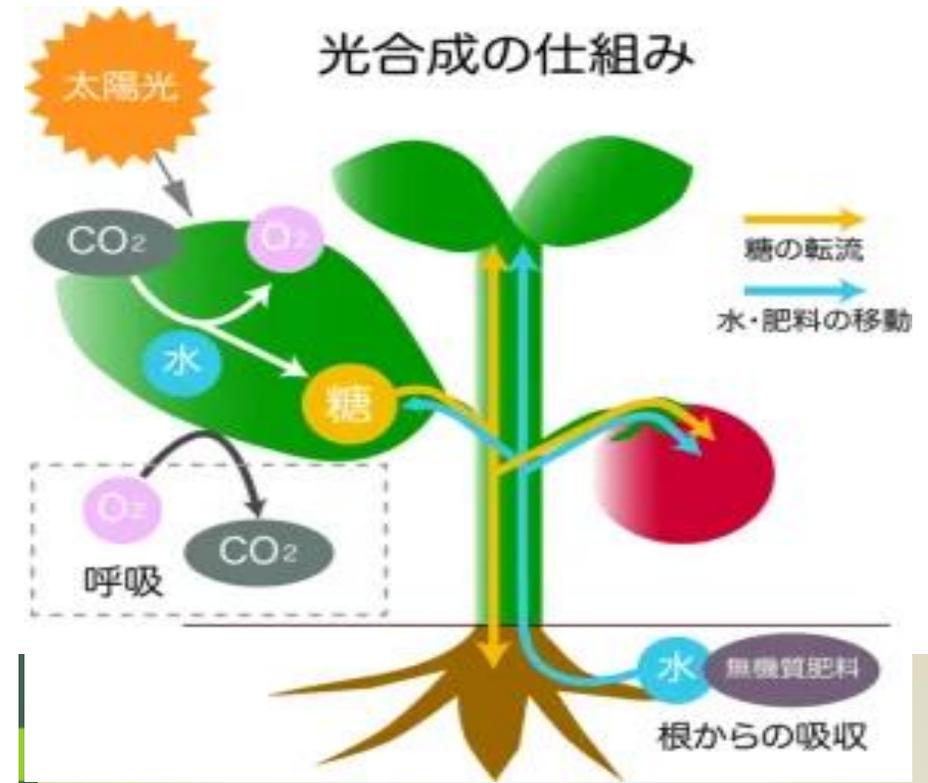
- ・収穫開始時期からは積極的な追肥を行いましょう。

本年も暖秋から暖冬傾向ですからNよりP・Kや草勢維持肥料(発根肥料)

①追肥は、ウルル18号5kg ふとる5kg カリっと1kg

②発根剤は、アミクエ5kg

③草勢維持は、コラーゲン・ラボ5kg (葉面散布は500倍にて)



アミクエ処理区



無処理区

